

まえがき

こんにちは、はじめまして。宇宙セラピスト KiKiRaRa と申します。

この本を手にとっていただき本当にありがとうございます。

私には宇宙での名前があります、Canal Lucius Vega（チャンネル ルシウス ベガ）。

本名はかなこ哉子と申しますので Canal のファーストネームは「かな」を表していることに気づいたときには鳥肌が立ちました。

大宇宙の大神の娘として生まれていたようです。

普段は占い師として活動をしています。

宇宙セラピスト KiKiRaRa という名前は宇宙からいただいたお名前になります。

私は幼いころより桜の花が大好きで結婚して家を建ててからお庭に大きな桜の木を植えています。

毎年見事に美しいピンク色のお花を咲かせてくれて本当に癒されています。

何より自然が大好きな私は、とても情緒豊かだと自負しています。

そんな私はロマンチストなのか、詩を読むのも、作るのも大好きで、幼いころより作詩をしてきました。

古いものは失ってしまいましたが、高校生のころより書いてきた作品をここでお届けできればと思っています。

併せてオリジナルの作画もご覧いただければと思います。

幼いころから、仏さまや神さまが大好きで、幼いながらお寺さんの説法を真剣に聴いていました。親族からは変な子だと思われていたと思います。

結婚するまで、暗闇が怖くてたまらなかったのですが、そんな私をわざと暗くて怖い目に遭わせるような父親でした。

のちにわかったことは、私は母親の体内にいるところに、父親に「私は神の使いとして生まれるので、どうぞ、いじめてください」というメッセージを伝えていたようです。

これは、超意識の中で行われたことなので、実際の父親は理解していなかったと思うのですが、実際に私と家族との関係はとても厳しいものでした。

自分のことを理解してもらえずに、悲しすぎて、小学1年生のときにすでに家出をしたと考えていましたし、死んでしまおうと思ったことも何度もありました。

小学6年生のときに、（もしも私が今死んだら両親は悲しむのかもしれない）と感じ、死

ぬことを考えなくなりました。

それでも毎日、母親との確執は激しく、暗い学生生活でした。

(30歳になったら死のう)と決意して学生生活を送っていました。

専門学校に通っていたときに、毎日、(どうやって死のうか)と考えていたころ、初めて恋人と呼べる、彼ができました。

彼はとても優しい人で、彼に私は、「親から愛されていない」と告げたときに、とても怒られて「子どもをかわいいと思っていない親はいない」と叱咤激励され、(そうだ、今まで成長できたのは両親のおかげなのだ)と心から深く反省し、死んではいけないと思うと同時に、とても深い感謝の気持ちになりました。

その彼とはお別れしましたが、そのときの言葉で今、生きていられることにとても感謝していますし、両親にも今では心から感謝しています。

しかし、遅ればせながら、私は父方の祖母と同居をしていました。

とても厳しいというか、理不尽な怒り方をする人で、幼いころからとても傷つけられ悲しかったのは、それが大きく影響しています。

祖母は、私が中学生のときに亡くなりました。人の死を間近に見たのは、そのときが初めてで、とてもショックを受けました。

生命の尊さを心から感じ、そのことは、祖母にとっても感謝しました。

しかし、長いこと、祖母のことがトラウマになっていて、深いところで心の傷が癒せていませんでしたが、スピリチュアルな能力を授かってから、きちんと祖母へ感謝することができるようになりました。

スピリチュアルな能力を授かったのは、32歳という、俗にいう、女性の大厄といわれる歳でした。

あまりに衝撃的に授けられることになった、その力を、多くの方のお役に立たせることが私の使命のようです。

これからお話しすることを、信じるか、信じないかは、ご自身でお決めいただければと思います。

不思議なお話もあるものだなあ、と思われることと思いますが、何かのお役に立てますことを心より願っています。

しばし、宇宙セラピスト KiKiRaRa のお話におつきあいください。